

# 第1学年1組 国語科学習指導案

## 1 単元 くらべてよもう 「じどう車くらべ」

### 2 本単元の指導の立場

#### (1) 児童の実態

本学級の子どもたちは、1学期単元「くちばし」では、文と挿絵を対応させながら読み、「問い」と「答え」を確かめて、内容の大体をとらえることができた。また、「うみのかくれんぼ」では、列挙型の構成になっている説明文を順序に気をつけて読む学習をしてきている。事柄の順序を考えながら書かれている内容を読んで、理解できるようになるこの期に、本単元を取り上げる。そして、「じどう車くらべ」では、バスや乗用車・トラック・クレーン車の「しごと」と「つくり」について、事柄の順序に沿って比べながら読むことができるようにしたい。さらに、その文章の形式を生かして絵本や図鑑の中から必要な言葉や文を選んで、簡単な説明文を書くことができるようにしたい。このことは、説明文の文型や事柄の関係性を理解するとともに、「読書センター」としてだけでなく、「学習・情報センター」として学校図書館を活用していこうとする子どもを育てるとともに、自分の考えを主体的に表現する子どもを育成する上からも意義深い。

#### (2) 教材の価値

本単元は、それぞれの自動車の説明の内容を読み取り、繰り返し出てくる接続語や文末表現に着目させて読み取った事柄について比べ、図鑑づくりを通して説明文の文型や構成を理解していくことをねらいとしている。本教材文は、子どもたちにとって身近な自動車を取り上げ自動車についての「しごと」と「つくり」の二つの問いに対して、説明が二つの段落に分かれて書かれていることで構成をとらえやすくなっている。また、「しごと」と「つくり」を関連付けるために、「そのために」という接続詞が使われており、さらに挿絵も詳しく丁寧に描かれ、理解を深めることを補っている。自動車の図鑑づくりを通して、絵本や図鑑からそれぞれの「しごと」と「つくり」を書き抜き、挿絵等と関連付けながら興味・関心をもって、自動車の特徴をとらえ説明することができる教材である。本単元での学習は、対比して違いを読む3学期「どうぶつの赤ちゃん」の学習へ発展していく。

#### (3) 指導の構え

図書館の本やカードを使って、自分で選んだ自動車の図鑑を作る活動は、どの自動車も「しごと」のための「つくり」になっていることを確認し、事柄の順序に沿って書くことで説明文の構成を理解するのに適した活動であると考え。

本単元の指導にあたっては、事柄の順序に沿って比べながら読む活動を通して、それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」は関係があることを理解し、教材文の構成を参考に自分が興味をもった自動車の図鑑づくりをできるようにしたい。そのために、教材文を読んで「しごと」と「つくり」について書かれている叙述を色分けし、書き抜いて整理していく言語活動を行う。まず、「つかむ」段階で、教師が提示した「じどう車図鑑」を見て、意欲を高め学習の見通しをもたせ、絵本や図鑑から自分が作りたい「じどう車図鑑」の自動車を見つける。次に「つくる」段階では、バスや乗用車・トラック・クレーン車それぞれの「しごと」と「つくり」について読み取り、「じどう車ずかん」を作る活動を設定する。そして、「みがく」段階では、絵本や図鑑を使って、自分が作りたい「じどう車ずかん」を作らせる。最後に「生かす」段階では、友だちと読み合っ、お互いの「じどう車ずかん」のよさや感想を伝え合わせる。

特に単元を通していろいろな本や図鑑を読んで様々な車について調べ、分かったことをもとに、自分で「じどう車ずかん」を作るという活動を行い、学校図書館の活用を図る。

### 3 目標

- (1) 自動車は「しごと」をするために、「つくり」が工夫されていることに興味をもち、「じどう車ずかん」を作るために、進んで絵本や図鑑を読もうとする。【関心・意欲・態度】
- (2) 事柄の順序に沿って、それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」について違いを比べながら読むことができる。【読むこと】
- (3) 片仮名の語を正しく読んだり、片仮名で書く語を使った文を書いたりすることができる。【言語についての知識・理解】

#### 4 単元の展開（全12時間）

段階	配時	学習活動と内容	教師の支援
つかむ	①	1 「じどう車くらべ」を読み、単元のめあてを立て、学習の見通しをもつ。 ○ 教師が提示した「じどう車ずかん」見て、意欲を高め、学習の見通しをもつ。 ○ 「じどう車くらべ」を読んで初発の感想を話し合い、学習のめあてを立てる。	○ 教師がつくった「じどう車ずかん」を提示することで、子どもに本を読んで図鑑を作りたいという興味・関心をもたせる。 ○ 子どもの「じどう車ずかん」づくりへの意欲が高まるよう、絵本や図鑑に載っている自動車の写真をいくつか紹介したり、自動車のビデオを見せたりする。
		① 2 絵本や図鑑を見て、自分がつくりたい「じどう車ずかん」の自動車を見つける。	
つくる	①	3 教材文「じどう車くらべ」の「しごと」と「つくり」を比べながら読む。 (1) 「じどう車くらべ」の問いをとらえる。 ○ 「しごと」と「つくり」の意味をとらえる。	○ 説明されていることを挿絵で確認することで視覚的にとらえることができるようにする。 ○ 「しごと」と「つくり」を正しくとらえることができるようにするために色分けした線を引いたり、キーワードを見つけたりさせる。 ○ 前時に学習した自動車と比べることで、「しごと」のために「つくり」が違ふと理解できるようにする。 ○ 毎時間の終末に並行読書を位置づけ、自動車の絵本や図鑑を読ませ、自分の作りたい「じどう車ずかん」に生かせるようにする。
		① (2) バスや乗用車の「しごと」と「つくり」を読む。 ○ 教材文を読み、それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」について読み取り、「そのために」という言葉を使って、図鑑作りをする。 ・ 景色がよく見えるように窓が大きいね。 ・ バスはたくさんの人を運ぶことができるね。	
	① (3)トラックの「しごと」と「つくり」を読む。 ・ トラックは、荷台が広がっているね。 ・ 重いものを運ぶから、タイヤがたくさんあるんだ。		
	① (4) クレーン車の「しごと」と「つくり」を読む。 ・ クレーン車も「しごと」「つくり」の順番で書いてあるね。 ・ つりあげるために、じょうぶなあしがあるな。		
みが	①	4 絵本や図鑑を読み、「じどう車ずかん」を作る。 (1) はしご車の図鑑を作る。 ○ 本を読み、「しごと」と「つくり」を書いて、はしご車の自動車図鑑を作る。 (2) 「しごと」のための「つくり」になっているか確かめ、はしご車の自動車図鑑の文を書き直す。	○ 机間指導をしながら、書き方などがわからない子には挿絵を見たり、「しごと」と「つくり」の関連性を考えたりするよう助言する。
		① (3) 自分の選んだ自動車の「しごと」と「つくり」について読み、説明する文章を書く。 ・ 「つくり」はありますやついていますと書いてある文だな。 ・ 仕事をするために合うような作りになっているかな。	
	①	① (4) 清書をし、絵を描いて図鑑を完成させる。 ① (5) 表紙を作り、「じどう車ずかん」を完成させる。	○ 「しごと」や「つくり」をわかりやすく書こうという意識をもたせるよう、声かけをする。 ○ 「つくり」とわかる表現例や挿絵に作りを書き込んだものを掲示しておくことで、絵本や図鑑の文章から「つくり」ととらえやすくできるようにする。
生かす	①	5 単元の学習を振り返りまとめる。 ○ 自分が作った図鑑と友達の図鑑とを交換して読み合い、感想を伝え合う。	○ 友だちのよさを具体的に伝えさせることで、達成感を味わうことができるようにする。

## 5 本時の主眼

- 自分が選んだ自動車について、本の中から写真や「あります」「ついています」という文末表現に着目し、自動車の「しごと」にあった「つくり」を見つめることができるようにする。

## 6 準備 既習図、学習プリント、自分で選んだ自動車の本

## 7 本時の展開（45分）

段階	学習活動と内容	教師の支援
つかむ	<p>1 前時を想起し、本時のめあてをつかむ。</p> <p>○前時に作ったはしご車の図鑑を読み、「しごと」と「つくり」について振り返り、本時の課題をつかむ。</p>	<p>○ はしご車を説明する文を書いたことを振り返り、「しごと」に合った「つくり」を選んで書いたことを確かめ、わかりやすい図鑑を作る意識を高めるために、説明する文は「しごと」「つくり1」「つくり2」の順番で書かれていることや「つくり」の文末表現を確かめる。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ともだちがわかりやすいじどう車ずかんをつくらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救急車がどんな作りになっているか、知らせたいな。</li> <li>・みんなに自分が作った図鑑を見てもらいたいな。</li> </ul> </div>	
つ	<p>2 自分が選んだ本から、自動車の「しごと」と「つくり」を見つけ、説明する文章を書く。</p> <p>(1) 挿絵や文末表現に着目して、自動車の「しごと」</p>	<p>○ 「しごと」と「つくり」を区別するために、絵本や図鑑の文章の文末表現に気を付けて読み、「しごと」には赤「つくり」には青の付箋をはるようさせる。</p>
く	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>救急車の仕事は、けがや病気の人を速く病院に運ぶと書いてあるよ。</p> </div> <p>(2) 文章の型や関連付ける接続詞を確かめながら「しごと」と「つくり」の文章を書く。</p>	<p>○ 「つくり」の書き方が難しいと感じる子のために、「つくり」とわかる表現例や挿絵に作りを書き込んだものを掲示しておくことで、本の文章からとらえやすくなるようにする。</p>
る	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>つくりは、○○があります、○○がついていますという書き方でいいな。</p> </div>	<p>○ 教師が提示した説明文が「しごと」にあった「つくり」になっているかという視点をもって読み、合っている、合っていない理由を考えるようにさせる。</p>
み	<p>3 自動車の説明文の「しごと」にあった「つくり」になっているか話し合う。</p> <p>(1) 教師が提示した説明文について、「しごと」にあった「つくり」になっているか考え、合っている・合っていない理由を話し合う。</p>	
が	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「大きな窓があります」という文は、病気の人を運ぶためのつくりではないと思います。</p> </div>	
く	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「赤いランプがついています」は、あっています。急いで運ぶためのつくりだからです。</p> </div>	
	<p>(2) 自分が書いた説明文が「しごと」にあった「つくり」になっているか読み直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「箱形の荷台がついています。」の文は仕事にあっているな。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>じどう車の「しごと」にぴったりあった「つくり」のせつめいになっているとわかりやすい。</p> </div>	<p>※ 「しごと」と「つくり」という教材文の構成を理解しながら、「しごと」にあった「つくり」になっていることを読み取って「じどう車ずかん」を作ろうとしている。</p>
生 か す	<p>4 次の時間の学習内容を確認し、本時学習のまとめをする。</p> <p>○ 次時は、説明の文章を見直して清書し、絵を描くことを確認し、次時への見通しをもつ。</p>	<p>○ 次時は、自分の説明文を必要に応じて「しごと」にあった「つくり」になるよう書き直し、清書することを確認する。</p>